

東京藝術大学芸術未来研究場

アート×ビジネス領域

ART
BUSINESS
TOKYO GEIDAI

会期 2025年2月7日〔金〕—2月16日〔日〕 12時—19時

会場 アート×ビジネス領域プロジェクトスペース

(〒101-0033 東京都千代田区東神田1-3-3 エトワール海渡商品部ビル5F)

協力 株式会社エトワール海渡 入場無料・会期中無休

レセプションパーティ 2月8日〔土〕17時—20時

アート×ビジネス領域

プロジェクトスペース オープンスタジオ

OPEN STUDIO [Part.1]

2025.2.7|fri.→2.16|sun

1

第1期 〓 赤池龍星、阿部文香、高野実紅、樋口紗也香

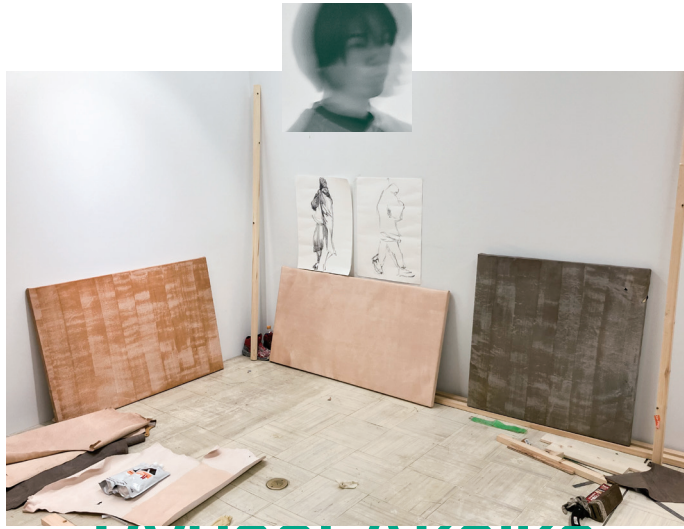


2024年、東京藝術大学芸術未来研究場の中に「アート×ビジネス領域」が誕生しました。

このアート×ビジネス領域では、アート事業の研究開発を通じて、アーティストの活躍を促す持続的な経済活動やビジネス環境の構築と、アート事業を支える専門家の育成を進めています。

このたび、東神田にあるアート×ビジネス領域のオフィスの一角を改修し、プロジェクトスペースを開設しました。スペースのオープン企画として、卒業後数年以内の若きアーティストの活動支援のためのレジデンス・プログラムを実施、その様子をオープンスタジオとして一般公開します。第一期レジデントは、赤池龍星（2015年絵画科油画卒業、2017年大学院絵画専攻油画修了）、阿部文香（2020年建築科卒業、2024年大学院メディア映像専攻修了）、高野実紅（2020年絵画科油画卒業、2023年大学院絵画専攻壁画修了）、樋口紗也香（2023年大学院先端芸術表現専攻修了）の4名です。

各々の出身科や表現形式にしばられない、この場所ならではの制作やリサーチの過程を、この機会にぜひご覧ください。



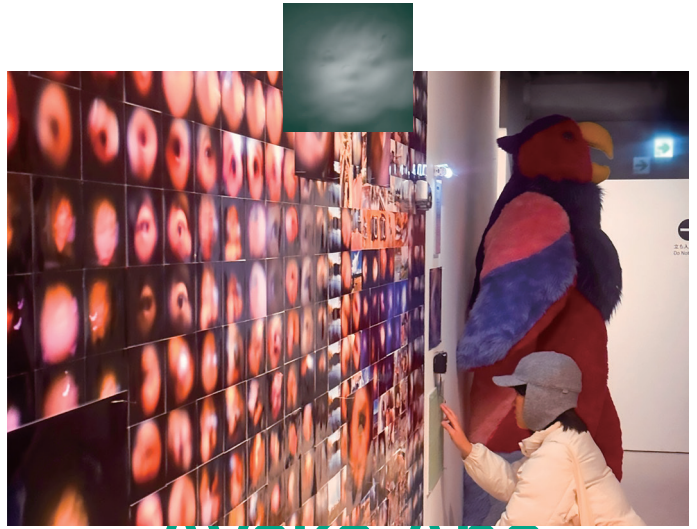
Ryusei Akaike

赤池龍星

1990年生まれ。2015年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業、2017年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画研究分野修了。修了後6年程造園職勤務。

目で見たことへの実感からスタートし絵を描いていきます。近年の展覧会に、赤池龍星展 (taimatzu、東京、2017年)、金峰町/KIMPOCHO (遊工房アートスペース、東京、2017年)。

制作風景、2025年



Ayaka Abe

阿部文香

2020年東京藝術大学美術学部建築科卒業。2024年同大学院映像研究科修士課程メディア映像専攻修了。ふとあらゆる事象が繋がりひとつの体系として体内に完全な世界が立ち上がる様な刹那的瞬間のために、実験し制作をする。自然科学・建築・身体からなる型や論。瞬間的体性感覚の分解と制御から建築の上演・インスタレーション、旅をする中で水晶体同士の対等な関係性として様々な生物の水晶体から見る写真・映像作品など。

《水晶体と水晶体、そしてその等価な相互による視覚へ》([Real Fish Eye Lens Project]より)、2024年、インスタレーション、写真、映像、着ぐるみ、4800×2400×800 mm



Miku Takano

高野実紅

1997年生まれ。2020年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。2023年同大学院美術研究科修士課程絵画専攻壁画研究分野修了。他者との関係を元にプロジェクトベースの制作発表を行う。

コロナ禍での大学院課程を修了後、健康的な日常生活への回帰のためセルフメディケーションの現場で働きながら、芸術の効果・効能を探求している。主なプロジェクトは《逸脱を語る》(2020)、《痛い痛い飛んで行け》(2023)。

《ブロンスのサプリメント》、2017年、ブロンズ(鑄造技法)、60×40×40 mm



Sayaka Higuchi

樋口紗也香

1997年生まれ。2021年、武蔵野美術大学空間演出デザイン学科ファッションデザインコース卒業。2023年、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程先端芸術表現専攻修了。自身が死んだあとに残るかもしれない人間不在の衣服に興味を持つ。仕事として衣装制作や縫製業をする傍ら、身体の輪郭を物理的にも詩的にも覆う衣服の本質についてリサーチし、インスタレーションやパフォーマンス、時にファッションショー形式で作品を発表している。

《皺はその肉体を記憶するII》、2024年、パフォーマンス、インスタレーション、石膏包帯、布、2000×2000×1700 mm